

タイ料理を歌う「ルークタウン」

序文

タイの音楽において、全国的に人気のあるジャンルの一つである「プレーン・ルークタウン」は文化的価値がある音楽と現在高く評価されている。ルークタウン (Luk Thung) という言葉は本来、タイ王立学士院発行の国語辞典によると、田畑で働き生計を立てている人と定義されているが、実際に日常的に利用されているニュアンスは田舎者という意味である。音楽の一ジャンルとして「ルークタウン」とあるが、厳密には曲という意味を持つ「プレーン」(Preon) を付け、「プレーン・ルークタウン」という呼び方となる。

タイ教育省国家文化委員会事務局の定義では、「プレーン・ルークタウン」(以下ルークタウン) は特有の表現方法、特徴的な旋律、歌詞、訛り、歌い方・演奏法を有しており、それによって地方の雰囲気を表しながらも、タイにおける生活、社会の在り方、考え方、文化などを歌う曲として存在する。日本の音楽で例えるなら、演歌が一番近いだろう。この音楽ジャンルに「ルークタウン」と名付けられたのは一九六四年であるが、該当する曲自体はそれより古くからあり、初めてのルークタウンの曲と

コースイット・ティップ・ティエンポン

されている『おお、農民の少女よ』という曲はラジオドラマの挿入歌として一九三八年に登場した。

ルークタウンは、作詞・作曲された時点のタイ社会の風景、価値観、方言を表す曲が多く占めており、歴史的な記録とも見なされている。大きな特徴は基本的に民謡のように単純な言葉が中心の歌謡であり、その表現も率直である。一例として、『奥さんを持つてきたのか』(Wanwan Wanwan) という、ある女性が既婚の男性に恋し親密になりたがるが、ある日その男性が妻を連れてくる光景を目にしてしまう曲がある。その歌詞は「え！奥さんを持ち歩いてきたの？奥さんを持つてきたの？もつたいたい！」と率直に表現している。

またルークタウンの内容は、他の音楽ジャンルよりも幅広く、例えば、恋愛、苦勞、貧困、売春、悲哀、郷土愛、略奪愛、愛国心、物語、そして料理などである。本稿で取り上げるのは料理をモチーフにした代表的なルークタウンであり、その表現と雰囲気はそれぞれ違う。以降紹介する三曲により世界的に有名になったタイ料理「トムヤンクン」以外にも、ルークタウンの歌詞を通じてタイ料理の多様性を認識できるだろう。

一、調理方法を歌う『ソムタム』

ソムタム (Som Tum) とは料理の一種で、青パパイヤを中心にニンニク、唐辛子、ライム、干しエビなどを白の中で搗いて作る甘酸っぱく辛いサラダである。本来ソムタムという料理名は総称であり、青パパイヤの代わりに人参や青マンゴーなどを使うこともあり、地方によって名称が「タムソム」(Tam Som) とも言う。その作り方を歌っている『ソムタム』という曲がよく知られている。次の歌詞を読むだけで調理方法が分かる。

これから美味しい食べ物について教えるよ。

それはよく食べられ、美味しいソムタムだ。

作り方も簡単で次の通りだ。

とても素晴らしい作り方だ。

手頃な大きさのパパイヤを買ってきて、

切り刻みに切り刻んで、切り取りに切り取る。量は若干でいい。

唐辛子とニンニクを搗くと、素晴らしい香りが出る。

魚醤とライム、そして砂糖、あるいはパームシュガーがあったら、それを入れる。

しっかりと美味しく味付けしてね。

そしてパパイヤを入れることだ。

あ、そうだ。良質な、粉の干しエビを入れるのを忘れないで。

トマトも早く、インゲン豆も急いで入れよう。

終わったら、台所から持ち出す。

もち米と一緒に食べる。あちこちみんなに配る。

よい香りに魅了されて、よだれが出そうになる。

そのラオスのソムタムのレシピを書き留めてきた。食べすぎる人は、おなかを壊すよ。気を付けて。

あと、おまけのアドバイスに従えば、とても気に入ると思う。焼き鳥と一緒に食べたなら、どう？ きつと美味しいよ。



ソムタム (パパイヤサラダ)

この曲は若い時からルークトウンに興味を持っているシリントーン王女が一九七〇年に、当時十五歳で作詞・作曲した。一番よく知られているのは一九九一年七月に行われた第二回「半世紀のタイのルークトウン」の大イベントで、タイの代表的な女性歌手ブンプア・ドゥアンチャンに歌われたバージョンであり、ルークトウンの代表曲の一つとなっている。それ以降、様々な歌手がルークトウン形式としてカバーし、ロック形式までも歌われている。

二、口説きに対する皮肉としての「ナムプリック」

ナムプリック (Nam Prik) はタイの典型的な家庭料理の一つで、

唐辛子を搗き、細かく刻んだ魚肉、ニンニク、エビペーストなどの具材を混ぜ味噌のようにして野菜と一緒に食べるおかずである。作り方は簡単で唐辛子と魚醤だけの場合もある。庶民的なレシピもあれば、とても高級なものもある。しかし、単純なイメージがあるからこそ庶民のイメージが強い。これがモチーフになり、『ご飯とナムプリックを食べる』(飯とナムプリック)という曲ができ、曲中の女性は上流階級をイメージさせる美貌を持つているが、実際に食べているものは高級な料理ではなく、単なる庶民の唐辛子味噌だけという内容である。

ほら、誰よりもしつこく聞いてくるなんて、

鶏のような好色漢のあなた、うつろな目つきで私を見ている。

口がうまいね、かつこいいお兄さん、私を口説こうとしているのね。

私に会ったのは一瞬でしかないのに、ほら、甘えてくる。

ご飯とナムプリックを食べているから、こんな美人になったのよ。

私の家族は裕福ではないのよ。エビと貝しかないのよ。

田舎者のように野菜を取ってきて水を桶ですくってくる。

夕方になると、運河で水浴びをするし、運河に体を浮かばせて遊びたい。

見た目をよくするために、整形で体に偽物や変なものを入れたことがない。

アブ、蚊、ヌカカ(糠蚊)、ダニ、

これらは私の肌近づこうとしても寄ってこない。



ナムプリックと野菜

ナンパしてくる男がいても警戒しなきゃ。
私を少し見るのは構わないけど、それ以上はだめよ。

何を食べてこんなに美人になったのかつて？

常に美人だし、自然のままよ。

厚化粧なんかしなくても、とつても魅力的だよ。

都会の人は長い丈のスカートを履き、ハイヒールも履くけど、

いつか転倒するかもよ。

そんな恰好で私の家の近所を歩いてみると、六メートルもしないうちに、

畦道から転倒してしまい、上の空の状態の目つきになるわ。

この曲は先に発表された曲の歌詞に対し、全く同じメロディーに「答え」のような歌詞を載せ歌う「プレイン・ケー」(組打ち曲)である。人間国宝である女性歌手ボンシー・ウオーラヌットが歌う『ご飯とナムプリックを食べる』(一九七五)は男性歌手サーヤン・サンヤーの『何を食べて綺麗になったの』(一九七五)に対する答えになっている。両曲はチョンラティー・ターンストーンが作詞・作曲した名曲である。

歌詞は地方の雰囲気を表しながら、うまくナムプリックを曲中に

導入している。皮肉を言う一方、「田舎者のように野菜を取ってきて水を桶ですくつてくる」のフレーズがあるように、素朴で都会の生活に染まっていないタイ女性のイメージを表している。また「裕福ではないのよ、エビと貝しかないの」というフレーズでは、当時のタイにおける一般的な庶民の生活の様子を描いており、現在と違い、エビや貝などは贅沢なものではなく、わざわざ店舗で購入するものではなく、周囲で簡単に取ることができた。

三、ユーモア豊富な架空のタイ料理

料理について歌っているタイの曲の中で、想像力の豊かさや登場する料理の数から見ると、一番高く評価できるのは『おかずは処刑人』(เพลงคนฆ่าคน) (一九七?) という曲だろう。馴染みのあるタイ料理をモチーフにし、動物、道具、武器を工夫し、具材として新たな料理を生み出すこの曲は、聞いてみると、笑いだしながら、引いてしまうぐらい、面白い曲である。またその料理の数(下線部)は二十二種類であり、これ以上料理名を登場させる曲がないと言っても過言ではない。

今日は誕生日パーティー、

お祝いしよう、一緒に楽しもう。

私はあるあなたにご馳走したく料理を作ったよ。

今日のおかずはきつと心に残るおいしさよ。

オー、オー、オー、オー

料理の腕は誰も私には敵わない。

みんなあちこち噂しているよ。

今日若い男女が集まっている。

おかずもデザートも作っておいた。

お金を持ち寄らなくて結構、さあ食べましょう。

今日は誕生日パーティーだから、大丈夫。

どれほど私の腕がすごいか、立ち寄って味わってみてね。

黒猫のピリ辛炒め、象のトムヤムスープ。

おい、竹藪入りオナガザルスープ。

ガマガエルのカレーソースかけ、そして焼きヤモリもあるよ。

また大ヤモリの生姜炒め、具材を詰めた猿料理。

美味しい銃弾入りケーンサムスープ。

爆弾入りカオラオスープ、玉ねぎも入れるよ。

金槌パネーンカレー、甘酸っぱいボール炒め、

棒のさつま揚げ、斧刃の天ぷら、天ぷらだよ。

ツボクサと銃弾スープ、

ポケットナイフ入りマッサマンカレー、大砲カレー蒸し。

デザートもあるよ、それは冷やし包丁で、胃がひりひりする。

棒も甘くてカリカリするよ、砂糖漬けの鋏だよ。

信じられないなら、食べてみて、気に入るよ。

扇椰子の砂糖の煮つけもバナナの幹のチップもある。

刀のココナツミルク煮も私は作れるよ。

ココナツは皮も剥かず実のまま入れるし、



チュウチャー・プラ (魚のカレーソースかけ)

食べたなら、上目遣いになっちゃうし、みんなは魅了されちゃう。どうぞ、好きなように。ふふ、ご安心ください。食べたなら、みんなお腹を壊しちゃう。

『おかずは処刑人』は笑いを取りながら、「プレーン・チョイ」(Plain Choe) というタイの民謡の歌い方を導入し、アップテンポのルークタウンとして体を動かしたくなる曲である。曲名の通り、そのおかずは食べた人を困らせ、最悪の場合、処刑人のように死に至らせる危険な料理の数々である。この曲も第二回「半世紀のタイのルークタウン」のコンサートで歌われた。歌い手の女性歌手クワンチット・シープラチャンは誰かに怒っているだろうと思わせる。

曲中に登場する料理名は非常に興味深く、あり得ない料理ばかりである。例えば、黒猫だが、タイの食文化には猫を食べる習慣がなく、また黒猫は縁起の悪い動物と扱われているが、作詞・作曲したチュウ・ピッチトはわざと今日の誕生日パーティーに「黒猫のピリ辛炒め」もあるよとお客さんを誘っている。他に登場している動物も、すなわち、象、オナガザル、ガマガエル、ヤモリ、大ヤモリ、そして猿、普段タイ人は食べないものである。言葉遊びを通じて

作詞家の想像力とユーモアは感じられる。

結び

本稿で取り上げているルークタウンの曲は共通テーマがタイ料理だが、そのタイ料理はそれぞれ違う方向で扱われている。登場している料理は大幅に工夫され、調理方法、口説きに対する皮肉がらみの返事、そして怒りを込めて作られた空想の食べ物として表現されており、タイ人にとって印象に残っている曲である。タイ音楽界において最も人気があるとされているルークタウンの歴史は、初めての曲とされている『おお、農民の少女よ』から八十年以上経過したが、現在でも折に触れて名曲が生み出されている。分かりやすい歌詞と自由な表現を充実に、生活に緊密な内容を歌詞に取り入れているルークタウンは今後もタイ人の心を魅了しつづけるだろう。

参考文献

タイ語

Krobthong, Siripom (ศิริพร ศรีทอง) 2004. *The Evolution of Thai Country Songs in Thai Society* (วิวัฒนาการเพลงลูกทุ่งในสังคมไทย), Bangkok: Panthakit Publishing.

Office of the National Culture Commission (สำนักงานคณะกรรมการวัฒนธรรมแห่งชาติ) 1991. *Half a Century of Thai Country Songs Part II* (ครึ่งศตวรรษเพลงลูกทุ่งไทย ๓๑๑-๓), Bangkok: Ministry of Education.

英語

Mitchell, James Leonard 2015. *Luk Thung: The Culture and Politics of Thailand's
Most Popular Music*. Chiang Mai: Silkworm Books.